

第5章

嫌われる露天商や不法占拠者たち： インフォーマリティの政治経済学

受田宏之

東京大学 総合文化研究科

要約：

インフォーマリティはメキシコで古くから議論の対象となってきた。今日では経済学がインフォーマリティ論の主要な切り口となっているが、その中で最も洗練されているのが、条件付き現金移転プログラム等の公的扶助（貧困削減）政策を設計したことで知られるS. レヴィの議論である。彼によれば、公的扶助と非効率な社会保険システムの組み合わせがインフォーマリティへの就業誘因となっており、就業形態を問わず受給できる基礎保険システムへの移行により、インフォーマリティは縮小し、メキシコ経済の成長率も高まるという。本稿では、レヴィに至る近年のインフォーマリティ論を検討したのち、経済学者の描く制度改革が思うように進まない理由を説明する政治経済学的なインフォーマリティ論を提起する。示唆に富むインフォーマル・ポリティクスの事例として、都市民衆運動組織のかかわった不法占拠地で生じた事件とその余波を取り上げる。

キーワード：許容された違法性、サンティアゴ・レヴィ、インフォーマリティの政治経済学、不法占拠、都市民衆運動

はじめに

インフォーマリティ（インフォーマル部門、インフォーマル経済）。その核には、「何らかの法律や公的な規則に違反しているものの国家と社会により許容された活動群であり、メキシコを含む途上国で大きな比重を占めている。」という理解がある。だが、それが具体的にどこまでの範囲を指すか、どの面に力点をおくのかは、論者により隔たりがある。

国際労働機関（International Labor Organization：ILO）は、インフォーマリティ論を牽引してきた機関の1つだが、労働者の権利への関心から、就業者とその家族が法的な保護を受けているのか、社会保険に加入しているのか、満足な生活を送っているのか、に焦点を当てる。インフォーマリティ論は一般に都市の活動に限定されるが、伝統的なものと近代的なものを区別する二重構造論（dualism）を突き詰めると、あるいは権利主体となる労働者の範囲を広げて考えるならば、小農も含めるべきとなる。生み出される財とサービス自体に違法性のあるいわゆる犯罪は、通常はインフォーマリティと分けて扱われるが、徴税やGDPの推計という観点からは、両者とも捕捉しづらいという点で同じである、等々。

2000年代に入ってから、インフォーマリティは依然として、メキシコの抱える問題の1つとして、研究者や政府、メディアにより取り上げられている。新しい点は、現代経済学がその対策も含め、インフォーマリティ論の主要な切り口となっていることである。本稿では、レヴィ（Santiago Levy）にその1つの完成形をみる経済的なインフォーマリティ論を検討したのち、それだけではインフォーマリティの存続を説明できないとして、インフォーマリティの政治経済学を提案する。

第Ⅰ節では主要なインフォーマリティ論を概観する。第Ⅱ節では、近年のメキシコの貧困対策を設計した経済学者レヴィが精力的に唱えるインフォーマリティ論に着目する。レヴィによれば、公的扶助と非効率な社会保険システムの組み合わせがインフォーマリティへの就業誘因となっており、間接税で賄われ就業形態を問わず受給できる基礎保険システムへの移行により、インフォーマリティは縮小し、メキシコ経済の成長率も高まるという。第Ⅲ節では、レヴィらの描く制度改革が思うようには進まない理由を説明する政治経済学的なインフォーマリティ論を提起する。示唆に富むインフォーマル・ポリティクスの事例として、都市民衆運動組織のかかわった不法占拠地で生じた事件を取り上げる。

I 主要なインフォーマリティ論

1 従来のインフォーマリティ論

インフォーマリティという概念は、途上国の開発過程における格差の拡大や都市問題を背景に、1970年代から研究者や援助業界により用いられるようになる。分析と解釈の枠組は、広義の近代化論に属するものから体制批判色の濃厚なものまで、さらにはマクロな構造の分析から個々の主体の戦略を描き出すミクロな事例研究まで多様だった。どれかが突出することなく幅広い見方のあることは、体系的な対策がなされていないことと表裏の関係にあった。

だが、1980年代の債務危機を契機とする新自由主義の導入とその深化、および政治的な民主化は、インフォーマリティへの視覚もそれを取り巻く環境も変えることとなった。構

造学派やマルクス主義、人類学に対して、個人の経済合理性と資源配分における市場の有効性に立脚する新古典派経済学が優勢になった。インフォーマリティをめぐる歴史的な独自性、階級対立、多種多様な生存戦略の代わりに、インフォーマルな主体の就業選択の合理性や直面する誘因—特に行動の費用と便益を決める制度環境—が数量的な根拠と合わせて論じられるようになる。それと並行して政治的には、インフォーマリティにかかわる政治慣行は、時代遅れで民主化を阻むものと捉えられた。政策の変容がインフォーマリティに与えた直接的な影響として重要なのは、安定化政策の引き起こす不況や急速な民営化によるフォーマリティの縮小(のもたらす短期的なインフォーマリティの拡大圧力)であり、とりわけ「上からのインフォーマリティ」とでも呼ぶべき、労働市場の規制緩和とそれに伴う雇用条件の不安定化、非正規化である。

アルゼンチン出身の ILO の研究者であり、その構造学派的なインフォーマリティ論で著名なトクマンは、これらの変容を受け止める一方で、インフォーマリティの理解にも対策においてもバランスを取る必要があると説く。「持たざる者」の選択の合理性、自発性は確かに重要だがそれが社会的排除—彼ら・彼女らの過酷な制約条件—の軽視につながってはいけないし、仕事の有無だけでなく質にも目を向ける必要があり、さらには政策論では経済的な権利だけでなく政治的な権利と社会的な権利も考慮されるべきであるという (Tokman 2011)。

債務危機から 2000 年代初頭までの、いわば新自由主義への移行期におけるインフォーマリティ論を代表するのが、在野のペルー人エコノミスト、デソトである (de Soto 1986; 2000; 2002)。インフォーマルな活動の就業者を草の根資本家のごとく活写し、包括的な規制緩和やインフォーマルな不動産の正規化を通じて彼らの潜在力が発揮され、経済全体が高成長を遂げるだろうという彼の議論の反響は、メキシコを含むラテンアメリカ枠内にとどまらず、世界全体に及んだ。筆者は既にその骨子を紹介しているので (受田 2009; 2014a)、ここでは、現時点から振り返ってデソトの評価を試みたい。

第 1 に、法規をはじめとする制度のあり様に注目し、体系的なインフォーマリティ論を提起したことは、色褪せることのないデソトの功績である。国民の多数派を占める特権の保護下でない人びとは、法規を遵守する費用が便益を上回るから自発的にインフォーマリティを選択し、その生産性の低さもインフォーマリティに不利に働く法規によるという説明は、単純過ぎるにせよ、「許容された違法性」という本質に触れている。また、それまでインフォーマリティ論とは別に論じられてきた住宅のインフォーマルな獲得過程—不法占拠や不法分譲、自助建設—を、所得を稼ぐためのインフォーマルな活動と合わせて同一の枠組の下で論じたことは彼の卓見である。とはいえ、法規の保護下でない人びとがどのように国家から利益を引き出すのかというインフォーマリティをめぐる政治に関しては、国家からの自律性が強調されることもあって、表層的であるか一面的な分析しかなされていない。

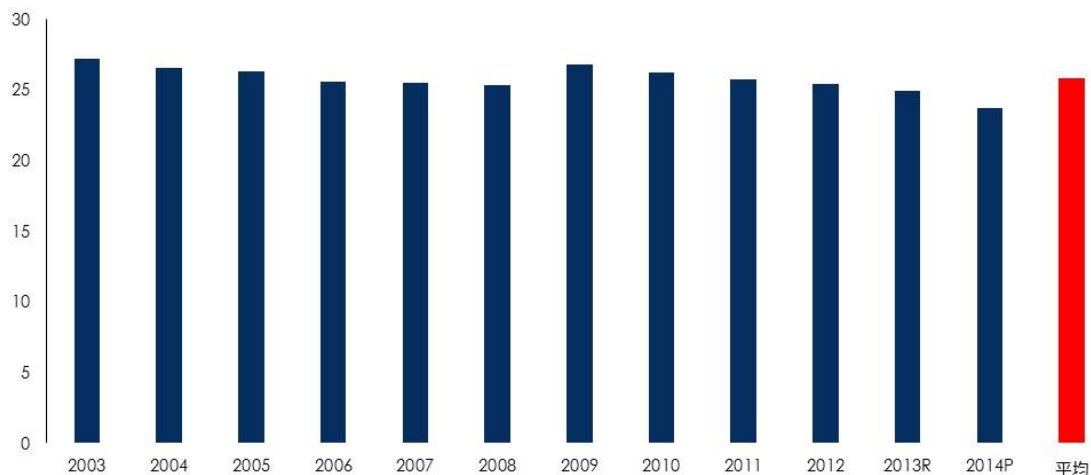
2つ目の評価は、彼のイデオロギーとアプローチにかかわる。低所得層にとってこそ市場は有用であると唱えるデソトの姿勢は、トクマンら左派の識者を遠ざけた一方で、右派を引き付けた。また、平易な言葉で、低所得層の従事するインフォーマルな活動は社会の「問題」ではなく「解決」であると説く彼の反エリート主義、反パターナリズムも、人気の一因となった。それは、開発援助業界における「(援助される側の) 足りないものを補うよりも持っているものを生かすべきだ」という発想の転換の流れとも一致した。だが、デソトが国家の庇護下にあるフォーマリティの非効率性を指摘することを超えて、インフォーマリティに成長可能性を見出そうとしたことは、経済学の専門教育を受けていないことと相まって、多くの経済学者の間で彼の評価を低いものとした¹。今では非経済学者の間でも、熱狂は過去のものである。

これからみる論者も、左派にとっては、デソトと同じ新自由主義者である。だが、彼らからみると、ひと昔前に一世を風靡したデソトは、興味深いが数量分析に裏打ちされないことを説くロマン主義者である。

2 メキシコにおけるインフォーマリティの大きさ

近年の有力なインフォーマリティ論を検討する前に、メキシコのインフォーマリティの大きさに関するデータを示してみたい。インフォーマルな就業からみると、国立統計地理院 (Instituto Nacional de Estadística y Geografía : INEGI) によるインフォーマリティ経済の推計は、『雇用調査』等の複数の統計資料をつき合わせて推計されており、包括的で信頼度も高い (INEGI 2015)。INEGI は、ILO 等と問題認識を共有し、インフォーマル経済

図1 GDPに占めるインフォーマル経済の比重の推移 (%) INEGIの推計



(出所) INEGI (2015)より筆者作成。

を(1)未登録部門、(2)社会保険制度に従業員が未加入の事業、からなるとする(農村も含む)。2014年の推計(暫定値)によれば、GDPに占めるインフォーマル経済の比重は23.7%(その内(1)が11.0%、(2)が12.7%)であった。また、就業者に占めるインフォーマル経済の比重は57.8%(その内(1)が27.4%、(2)が30.4%)だった。インフォーマル経済に過半の就業者が従事している一方、その生産性はフォーマル経済に顕著に劣ることが分かる。また、インフォーマルな性格の仕事は減る趨勢にはない(図1)。

住宅のインフォーマリティについては、『2010年人口センサス(Cuestionario Ampliado)』における住宅の建設形態に関する問いへの回答を示すことにした(表1)。「購入」を除く4つのカテゴリー(「注文」、「自助建設」、「その他」、「不明」)、とくに「自助建設」の場合、インフォーマリティの度合いが強い可能性が高い。それらが、都市化が進むにつれ比重が低くなるにせよ、現在のメキシコでも重要性を持っていることが分かる。

表1 住宅の建設形態 2010年

居住地の分類	住宅の数	建設の形態 (Forma de adquisición) %				
		購入 Compra	注文 Mandada a Construir	自助建設 Autoconstrucción	その他 Otra forma	不明 No especificado
居住者が2,500人未満	5,519,298	6.1	39.1	48.9	5.7	0.1
居住者が2,500-14,999人	3,147,666	13.4	42.7	37.5	6.1	0.3
居住者が15,000-99,999人	3,024,446	28.5	35.9	30.3	4.9	0.4
居住者が100,000人以上	10,202,999	48.8	23.7	24.5	2.5	0.6
全国	21,894,409	30.1	32.0	33.3	4.1	0.4

(出所) INEGI(2013)より筆者作成。

3 現在有力なインフォーマリティ論

本項では有力なインフォーマリティ論を3つ紹介する。1つ目はメキシコの労働市場は分節化されていないと論じるマロニー(William Maloney)であり、2つ目は二重構造論的な前提に立ちつつ現代経済学の立場から、インフォーマリティは低生産性から逃れられず公的支援は無駄に終わると説くラポルタとシュライファー(Rafael La Porta and Andrei Shleifer)の議論である。3番目は、インフォーマリティをフォーマリティと「同等に」扱うことで経済全体の生産性の上昇を図ろうとするマッキンゼーの報告である。

世銀エコノミストでメキシコの労働市場研究で知られるマロニーは、メキシコの労働市場は分断されていない(not-segmented)と説く(Maloney 1999; 2004; 2009)。途上国の労働市場研究では、ハリス・トダローモデルのように(労働組合の圧力等の)外生的な要因により、あるいは効率賃金仮説のように内生的に、近代部門の賃金は、在来部門すなわち

農村と都市インフォーマル部門の賃金よりも高くなると考えられる傾向にあった。だが、彼は、雇用のパネルデータを用いた分析などの計量分析を通じて、インフォーマルな自営業（零細事業）主は、嫌々ではなく自発的にそれを選択しており、両部門間の賃金格差はみせかけのものであるという。これは、労働集約的な産業では、小学校や中学校で勉強を終えたとまずインフォーマルな企業の徒弟として腕を磨き、その後フォーマルな中大企業に雇われ、熟練の技術はあるが体力は落ち育児の負担も減る年齢になると自らインフォーマルな事業を興すというように、両部門間では労働移動がよくみられるとする都市社会学の成果とも一致するという。マロニーの主張は（1）式に要約される：

$$w_f = w_i + \alpha_i \quad (1)$$

ここで、 w_f と w_i はそれぞれ、教育水準と就業年数など他の条件が同等の人びとがフォーマルな企業で働いたとき、インフォーマルな企業で働いたときの収入である。 α_i は、リスクや弾力性など賃金以外のインフォーマリティの特質である。

マロニーは、労働組合が組織労働者の賃金水準に影響を与えていないとはいえず、また法規を守らぬ文化がインフォーマリティの一因となっていることも認める (Maloney 2009)。それでも、メキシコの課題は、フォーマル—インフォーマルという二重構造にあるのではなく、労働者の全般的な人的資本の不足やフォーマル部門の技術水準の低さこそを是正すべきという。

メキシコの事例に限ったものではないが、企業ガバナンスの研究等で世界的に知られるラポルタとシュライファーも、インフォーマリティの経済学的な研究に参入している (La Porta and Shleifer 2008; 2014)。彼らは、世銀の企業調査等の膨大な統計資料の処理と二重構造論の現代経済学的な解釈に基づいて、インフォーマリティは生産性が低く、それを高める余地は乏しいと厳しい裁定を下す。彼らによれば、インフォーマリティは、1) それが途上国経済に占める比重は大きい、2) 個々の企業は小さく（労働生産性でも付加価値生産性でも）非生産的で停滞している、3) 政府の規制がこうした特徴をもたらしているわけではない、4) インフォーマルな企業がフォーマルなそれへと成長することは稀である、5)（異なる国々の比較によれば）経済発展につれてインフォーマリティのシェアは低下していく、の5つの事実により特徴付けられる。

インフォーマリティのこれらの特徴は、多くの途上国経済が顕著な二重構造—現代経済学によれば生産性に勝る近代部門への移行の進まない状況—を持つことにより、説明がつくという。ラポルタらは、二重構造の背景として、需要の制約 (Murphy, Shleifer and Vishny 1989) よりもむしろ、経営者、企業家としての能力に欠けるものが自営業や小企業を営んでいるという供給側の制約を重視している。

本研究は、最も多くの統計資料を用いたインフォーマリティ研究の1つであろうことな

ど評価すべき点のある反面、生産性の測定などの手法、インフォーマリティの概念付け、政策含意等において、議論の粗さは否めない。その重要性は、生産性という今日の経済学が最も重視する変数を軸に、主流派の経済学者がインフォーマリティの分析に乗り出したことにある。

マッキンゼーのレポートは、ビジネスの観点から、メキシコにおけるインフォーマリティーフォーマリティ間の格差解消に向けて包括的な政策提言を行っている(Bolio et al. 2014)。ラポルタら同様、インフォーマリティの低生産性が強調されるものの²、彼らとは異なり、様々な処方箋が提示される。

その中で、ラポルタらだけでなくマロニーにもさらにはデソトにもない点は、法規を守らぬことの便益というインフォーマリティであることの有利さの重視である。たとえば、インフォーマルな事業は信用へのアクセスが乏しいとされてきたが、マッキンゼーはだから公的主体は資金を融通すべきとは考えない。むしろ、政府の目から逃れるために事業を隠匿したり小規模に留める原因となる違法性、政府の法規を履行させる能力のなさ、貸し倒れを許容する制度上の不備（貸し手の保護制度の欠如、煩雑な破産手続き、借り手に関するデータ不足など）といった人為的な歪みを取り除くことが先決となる。デソトが説くように（通信や電力部門で顕著な）フォーマリティを競争から保護する規制も撤廃すべきだし、殆どの論者が認める人的資本の改善も必要だが、それらに加えて、インフォーマリティを優遇する仕組みを改めることも説いている。OECDによるメキシコ経済の調査報告でも、インフォーマリティが社会全体に課す費用と対策について、マッキンゼーに近い議論を展開している(OCDE 2015, Capítulo 1)。

もちろん、インフォーマリティであることの便益を強調したのはマッキンゼーが最初ではない。フォーマルな企業の団体は、インフォーマルな企業を「不正な競争相手」とずっと非難してきた。また、インフォーマルな主体のミクロな政治に関する研究は、彼らが政府機関からいかにしてインフォーマルであることの費用を減らしつつその便益を高めようとしているのかを明らかにしてきた。

次節では、レヴィのインフォーマリティ論を検討する。レヴィは現代経済学の分析枠組に則りつつ、インフォーマリティの有利さを指摘する。だが、それは、レヴィ自身が導入に貢献した公的扶助の拡大とフォーマリティを対象とする非効率な社会保険制度の不整合によるものであり、結果として経済全体の生産性の低下を招いているとされる。

II 制度設計者サンティアゴ・レヴィのインフォーマリティ論： 社会保険と公的扶助の非整合性

レヴィは、メキシコを代表する経済学者であり、最も影響力のあったテクノクラートとって過言ではない。ボストン大学で博士号を取得した優秀な経済学者であるレヴィは、

財務省 (Secretaría de Hacienda y Crédito Público : SHCP) や社会開発省 (Secretaría de Desarrollo Social : SEDESOL)、社会保険庁 (Instituto Mexicano de Seguro Social : IMSS) で要職を歴任し、近年は米州開発銀行 (International Development Bank : IDB) のチーフ・エコノミストなどを務めている。

彼の名を不朽にしたのは、1997 年に導入され、対象地域と範囲を広げながら今日まで続く条件付き現金移転 (Conditional Cash Transfer : CCT) プログラム (PROGRESA - Oportunidades - Próspera) を設計したことである。それは、受益者となる貧困層の厳格な選別、児童の就学等の人的資本の改善を受給条件としたこと、インパクトを高めるため女性に現金を渡すこと、さらにはランダム化比較試験を含む厳格な評価の実施など、最大限の効果を発揮するよう設計されている。それは、貧困世帯の所得の絶対的な上昇、就学率の改善等に貢献し、海外でも参考にされた。

ところが、CCT はこれら因果関係を制御できる効果を超えて、貧困世帯が生産的な仕事に就いて持続的に所得を向上させることを保証するものではない。貧困層のエンパワメントが進まないのには、複数の理由が考えられる。その中でレヴィが問題視するのは、CCT を含む公的扶助 (社会的保護) と、同じくテクノクラートとしてかかわった社会保険制度の 2 つの仕組みの間に不整合があり、恵まれない階層にインフォーマリティを選択する誘因となっていることである (Levy 2008; Busso, Fazio and Levy 2012; Levy and Schady 2013)。

CCT や 2000 年代に導入された「民衆保険 (Seguro Popular)」等の公的扶助は、非拠出型の公的プログラムである。多くの農村部では近所に保健センターしか医療機関がないように、所得の低い者ほどそれを高く評価していると考えられる。これと対照的なのが社会保険である。それは、企業が一部を負担する場合でもその分だけ賃金から天引きするという意味で、労働者が負担し、再分配を伴わない拠出型の制度である。その上、一括型のパッケージで選択の余地が乏しい上、そのサービスの質の低さはよく知られるところであり、所得の低い人びとほどその評価は低くなる。

レヴィは、マロニー同様、メキシコの労働市場に分断はないとする。彼自身が、複数のデータと分析手法を用いて、特定の大企業で長く働き高い所得を得ているような恵まれた層を除いて、労働者は頻繁に、合理的な選択の結果として、フォーマリティとインフォーマリティの間を移動することを示している。レヴィは、インフォーマルな企業には、脱税や社会保険の未払いが監査官に見つかり罰金を取られるリスクを考慮しての小規模操業や不十分な技能訓練の機会といった不利があり得ることを認める。だが、ラポルタらのようにフォーマルな企業よりも劣った存在とはみなさない。両者に生産性の差がないと仮定しても、上記の 2 つの対照的な制度の存在と機能する労働市場の下では、インフォーマリティが拡大するようになり、成長率も低くなるという。

レヴィの議論は簡単なモデルで説明できる。(2) 式はフォーマルな企業の就業者の効用 U_f は、(社会保険の拠出 T_f 分が引かれた) 賃金 w_f と社会保険への拠出 T_f にそれへの就業者

の評価 β_f ($1 \geq \beta_f \geq 0$) をかけ合わせたものとの和であることを示している。

$$U_f = w_f + \beta_f \cdot T_f \quad (2)$$

インフォーマルな就業者の効用 U_i は、(3) 式のように、賃金 w_i 、非拠出型の公的扶助の受け取り T_i とそれへの評価 β_i ($1 \geq \beta_i \geq 0$) の積、および (1) 式の α_i を足し合わせたものとなる。インフォーマルな就業者のすべてが公的扶助の受益者ではないが、その重なりは大きく、かつ彼らは社会保険に加入できない一方で公的扶助を無償で受けることができるのは重要な事実である³。

$$U_i = w_i + \beta_i \cdot T_i + \alpha_i \quad (3)$$

労働市場の均衡条件は、 $U_f = U_i$ であるが、社会保険制度の非効率はその低い評価（顕著に 1 よりも小さな β_f ）となり、フォーマルな就業者の効用 U_f を低める効果を持つ。その一方で、 α_i を無視すると、非拠出型で低所得層にとって評価の高い（ β_i が比較的 1 に近い）公的扶助の充実は、インフォーマルな就業者の効用 U_i を結果的に高める。このため、制度のミスマッチによって同等の属性を持つ労働者の間で、フォーマリティからインフォーマリティへの移動が促される。それは、労働力が相対的に過少になったフォーマルな企業の賃金 w_f を高め、労働力が過大になったインフォーマルな企業の賃金 w_i を押し下げる効果を持つ。就業選択に歪みのない状況（ $\beta_f = 1$ かつ $T_i = 0$ ）と比べ、人為的にフォーマルな企業の生産と投資が減少し、インフォーマルな企業の生産と投資が増加することにより、総生産と成長率は減ることになる。インフォーマリティとフォーマリティの間に内在的な生産性格差があるとするならば、社会的損失はますます大きなものとなる。

処方箋に関すると、レヴィは、CCT をはじめとする公的扶助は継続すべきだが、安易に拡大することで就業選択を歪めたり依存をもたらすこと、さらには財政赤字を増やすことを戒める。解決策は、現今の社会保険制度に変えて、消費税でファイナンスされ、すべての労働者が加入する基礎保険（universal social entitlements、健康保険と年金、生命・障害保険からなる）の導入である。それを通じて、インフォーマリティは縮小し、経済全体の生産性は高まり、長期的には CCT も減額されることになるという。基礎保険の費用は彼の試算では GDP の 4.3% である (Levy 2008, Chapter 10)。

レヴィの議論は、理論の奥行きと実証性、および提言の具体性において、最も洗練されたインフォーマリティ論といえる。ハンソンは、改革を積極的に進めてきたメキシコにおいて成長率が低位に止まっている謎を検討し、4 つの要因を挙げているが、レヴィによる制度の不整合論はその中に含まれている⁴ (Hanson 2010)。

Ⅲ インフォーマリティの政治経済学

1 インフォーマリティの政治経済学に向けて

レヴィに至るまで、先行研究はインフォーマリティの経済的側面に注目してきた⁵。だが、インフォーマリティは政治的な現象でもある。求められているのは、インフォーマリティの経済学的な分析に様々なレベルでの国家との関係の洞察を組み合わせた政治経済学の構築である。それは、経済的含意を有するだけでなく、民主主義の質への影響など政治的な含意も持つ。

理論的なレベルでは、第1に、インフォーマリティの大きさは国家がその意図を執行する能力（capacity）と反比例の関係にあり、さらに、国家の能力の低さは国民の国家への信頼の低さと相補関係にあり、直ぐには高められないことが重要である。第2に、インフォーマリティが国家にとって、脱税や長期的な低成長といった費用を課すだけでなく、低所得層の生存維持による社会・政治不安の抑制をはじめ一定の利益をもたらすことも忘れてはならない（Centeno and Portes 2006）。これら2点を考慮するならば、経済的な不確実性を無視したとしても、レヴィらの改革案が実施されるのは政治的に容易ではないこと、さらにたとえ実施されたとしてもインフォーマリティの顕著な削減につながるかは定かではないことが分かる。

インフォーマリティの政治経済学においては、これらのマクロで一般的な論点の解明がミクロなレベルでの分析により補われねばならない。ミクロな分析で鍵となるのが、従事者の組織化である。組織化の目的は、内部の紛争を減らし、かつ外部との交渉力を高めることにある。

インフォーマリティの中で、露天商と不法占拠者が最も組織化が進んでおり、それに関する先行研究やメディアの報道が多いのは偶然ではない。両者とも、自らの所有物ではない（少なくとも確定していない）土地を有利な条件で利用できるかに左右される活動であるため、仲間で結束し政府から譲歩を引き出そうとする。人の重なりも大きい。不法占拠は後述するとして、露天商の例をみると、バリオス（Alejandra Barrios）という露天商組合の女性リーダーは、メキシコ市で最も多い1万人以上の露天商を傘下に収めているとされる。敵対組織のリーダーの夫の殺害を命じた嫌疑で2年間収監された経験があるにもかかわらず、自身や家族が市会議員（主にPRI所属）を務める等、政治力を保っている⁶。

組織化したインフォーマルな主体は、デモや座り込み等の直接行動による圧力、陳情、選挙支援（投票の約束や演説への動員等）、組織リーダーの地方政治家や行政官への転身といった様々な手段を巧みに使い分けながら、国家から最大限の利益を得ようとしてきた。露天商や不法占拠は統計資料には現れにくく、しかも政治行動により経済的な利得を高めるという点で、レヴィらのモデルでは捉えにくい。それを概念化すれば、(5)式のように、インフォーマリティの効用 U_i の構成要素に政治的便益 P_i を加えたものとなるだろう。 P_i は公式統計には反映されないことが多い。それは所属組織への貢献など政治的投資ないし

犠牲に応じて価値が高まっていくものの、選挙結果等、不確実性を伴う変数でもある。

$$U_i = w_i + \beta_i \cdot T_i + \alpha_i + P_i \quad (5)$$

インフォーマルな政治慣行は、経済学者にとっては生産性の高くない活動を政治的に延命させるものであり、また政治エリートの側からも、透明性に欠け制度化になじまぬものであると批判を浴びてきた。インフォーマル・ポリティクスは、低所得層の生存や助け合いを可能にする反面、本質的に経済成長や民主化と相容れぬものであり、それらに貢献する経路はないのか否かが問われている(受田 2014b)。

2 レヴィの構想を阻むもの

インフォーマリティの政治経済学という観点から、レヴィの構想を批判的に検討してみたい。ここでは、先進国における技術革新の性格や貿易政策といった外生的要因は考えないものとする。

まずレヴィも言及しているように、「フォーマリティの政治経済学」⁷において改革を妨げる元凶とされる公的部門における抵抗勢力の存在を挙げねばならない。現今の非効率な年金や医療制度から利益を得ている者は改革に抵抗するだろう。また、レヴィはCCTのおかげで人的資本の底上げはできたというが、強い政治力を誇る教員組合と政府の駆け引きが公的教育の質の改善につながらなければ、たとえ社会保険改革が導入されても労働生産性は伸びないかもしれない。

レヴィらの議論に足りないのは、国家の能力についての配慮である⁸。民主政体でラディカルな改革が受け入れられるためには、国民多数派の支持を得て国家がそれを遂行する力を持たねばならない。インフォーマリティを、一定の範囲内での法規からの逸脱の国家による黙認とするならば、それは、ラテンアメリカ各国の歴史において、最善の制度が実現できない状況下での「次善解（インフォーマルな補助金）」的な性格を有してきた。

理論的には状況が改善するとしても、メキシコの労働者階級は政府を信頼し、消費税率の引上げに同意するだろうか。また、レヴィの改革はもっぱら労働市場にかかわるが、脱税、不法占拠、公道の使用、知的財産権への抵触等、広義の所有権の侵犯もインフォーマリティの重要な要素をなす。改革が導入されたとしても、これらのインフォーマリティがなくなる可能性は高い。これに、先住民をはじめ歴史的に不利な条件におかれてきた社会集団の存在を加味するならば、インフォーマリティの排除に国家と国民が積極的に乗り出すとは考えにくい。

マクロなレベルに転じて、政党に目を向けると、現与党である制度的革命党（Partido Revolucionario Institucional：PRI）の改革派および中道右派の国民行動党（Partido Acción Nacional：PAN）は、そのイデオロギーと支持基盤から、レヴィやマッキンゼーの

提言を受け入れやすい。だが、民主革命党（Partido de la Revolución Democrática：PRD）の一部派閥および国民刷新運動（Movimiento Regeneración Nacional：MORENA）らの勢力はインフォーマル・ポリティクスと相性がよく、それにかかわる組織の意向を尊重せねばならない。これらの勢力に支えられ、「左派のポピュリスト」と称されるオブラドール（Andrés Manuel López Obrador）が次期大統領選で勝利することがあれば、レヴィの描く改革の見通しは暗いものとなるだろう。

3 インフォーマル・ポリティクスの限界：ある不法占拠地で生じた事件とその余波

組織を介在するインフォーマル・ポリティクスを異なる主体がどのように利用し解釈しているのかを示す象徴的な事件が 2016 年の夏に起きている。本稿の最後に、事件の経緯と背景、メディアによる扱い、異なる主体の反応、その含意の順に、論じてみたい。

事件の経緯

2016 年 6 月、メキシコ市の警察は Condesa 地区 Benjamin Hill 通り 12 番地にある 3 階建ての家屋を搜索した。この住宅は、2013 年に自称 Asamblea de Barrios Poniente という都市民衆運動組織に属する 10 家族により占拠された。その後、隣人は、そこに出入りする者が恐喝を行ったり麻薬を売っていると政府に訴えてきた（出所は章末の「Asamblea de Barrios Poniente の事件に関する情報の出所」リストの番号(8), (10)、以下同じ）。2015 年 12 月には、警察に追跡されてきた不審車両が占拠地前に停まり、警察との間で銃撃戦になるという事件も起きている（(2), (3)）。

こうした経緯から搜索がなされ、Asamblea de Barrios の知名度も手伝い、大々的に報道された。だが、犯罪の直接の証拠は見つからず、代わりに、隣家に続く地下トンネルや収納スペース、とある露天商組合員の支払い記録等が発見された（(8), (10), (27)）。占拠を率い本件の首謀者とされたゴンサレス（Héctor González González）氏は、これまで PRD、PAN、PRI の地方政治家に用心棒や選挙動員のために雇われてきたといういわくつきの人物である（(4), (19)）。彼の率いる組織による不法占拠地がほかにも 6 つないし 8 つ存在するとされる（(32), (34)）。同様のリーダーであり、より暴力的とされる兄は、誘拐容疑で既に塀の中にあつた。翌 7 月には住宅の取り壊しが始まり（(25)）、政府とメディアの不当性を訴えていたゴンサレス氏は 8 月末、住宅の略奪容疑で逮捕、収監された（(33), (40)）。

事件の背景

事件の背景を説明したい⁹。都市民衆運動（Movimiento Urbano Popular）とは、大都市における住宅の過小供給やその他低所得層にのしかかる都市問題の悪化という条件に、1960 年代末から 70 年代にかけて多くの指導層を輩出することになる学生運動などの左翼運動の隆盛が重なって、生まれたものである。毛沢東主義等の教義を掲げつつ、フォーマ

ル部門で安定した所得を得て正規に住宅を得る見通しの乏しい人びとを組織化、動員し、政府や開発業者と闘い譲歩を引き出そうとする組織が数多く誕生した。1985 年にメキシコ市を襲った地震と政府の無策は、運動を活性化し、党派性の顕著だった組織間の横の連携を強めることにもなった。1987 年に小組織の連合体として生まれた Asamblea de Barrios は、最大規模の都市民衆運動組織だった。

政治の変容も、運動組織を介したインフォーマル・ポリティクスを促した。右傾化する PRI を離党したカルデナス（Cuauhtémoc Cárdenas）ら旧 PRI の政治家が、非 PRI の左派勢力と連携して PRI の一党支配（1929～2000 年）を打破しようとの機運が高まったとき、大半の民衆運動はそれへの協力を選んだ。改竄の疑いの濃厚な選挙で PRI が勝利しその後左派政党 PRD が結成されると、運動組織は PRD の支持基盤の 1 つとなる。政党との接近は運動組織に属する家族に実利をもたらしやすくなった一方、それまで政府と距離を取ることで批判する対象だったクライエントリズムを自らが実践することにもなった¹⁰。

加えて、メキシコ市の場合、連邦特別区ということで政治的自治を認められて来なかったが、1987 年の改正で連邦区議会の開設等が定められ、さらに 97 年の改正で知事が住民により選出されること等が定められた。メキシコ市は左派の根強い地域だが、選挙の実施は左翼の側に、PRI や PAN との競争を、さらには PRD 内部の派閥争いで優位に立つことを要請した。これは、大衆の動員力に優れる組織には交渉の余地を広げる効果を持った。メキシコ市の元知事であり、PRD の候補として 2 度大統領選で敗れたのち新政党 MORENA を立ち上げ、2018 年の総選挙での勝利を狙うオブラドールの場合、運動組織との結び付きは一層深いものとなる。オブラドール側にとって彼らは頼れる支持母体である一方、運動側にもそのカリスマ性およびエリートと体制を糾弾する明快な姿勢は魅力である¹¹。

地理的背景も見逃せない。事件の起きた Condesa 地区は、メキシコ市の中心部クアウテモク行政区（Delegación Cuauhtémoc）に位置するが、中産階級の居住地であり、近年は再開発が進み、市内有数のお洒落な街とみなされている。不法占拠は山間部や農地、環境保護区の比重の高い市の外延部で多く見出されるが、都市としての歴史が古く、所有権の曖昧な空地や劣化住宅の散見される中心部においても民衆組織は存在感を放っている。だが、今回は「目立ち過ぎた」のであり、占拠者たちは過剰なまでの注目を浴びることになる。

メディアによる「ネガティブ・キャンペーン」

本件はメディアで広く取り上げられたが、それ以上に興味深いのは、占拠関係者およびその背後にあるだろうものについてネガティブな言説が繰り返し広げられたことである。新聞記者のマウレオン（Héctor de Mauleón）氏は、メキシコの主要紙の 1 つ *El Universal* 紙のコラムで当該住宅にまつわる疑惑を指摘し、当局の介入を促した（(4), (6), (22)）。介入後は、「Asamblea de Barrios により脅迫を受けている」と主張している（(7)）。

報道では、出来事の記述や関係者の談話以外に、裏付けの取れていない情報が挿入され

たり、不透明な背景の説明がなされた。さらに、本件とは直接かかわりのないインフォーマル・ポリティクスを批判する記事も複数現れた。搜索の際に麻薬も武器も出てこなかったのは、地方政府内に内通者がいたからだと示唆される ((11))。より一般に、占拠組織は役人による情報提供を受けているとされる ((18))。プロの占拠屋の行動パターンが、政府関係者との癒着や転売の可能性も含め、ネガティブな筆致で描かれる ((22), (23))。従来から指摘されてきたことだが (たとえば(1))、低所得層向けに割安な集合住宅を提供するメキシコ市の政府機関である住宅局 (Instituto de Vivienda: INVI) は、Asamblea de Barrios のような運動組織の関与するプロジェクトを優遇してきたという言及がなされる¹² ((30))。麻薬売買等に従事する犯罪組織 (Unión Tepito: テピート連合) の成員が当該家屋に住んでいた可能性があるとする ((19))。Asamblea de Barrios が支援しているとされる占拠地には高額な土地の含まれることが写真付きで示される ((15), (28))。詐欺と居直り、暴力による恫喝等、Asamblea de Barrios の関与の疑いがあり違法性の高い不法占拠の事例が紹介される ((41), (42), (43))。

このように本件の露呈以降、インフォーマル・ポリティクスの否定的な側面を選択し強調する多数の情報が発信された。それは、新聞を購入したりインターネットを閲覧できる非低所得層には受け入れやすいストーリーであると同時に、不法占拠や社会運動に関する彼らのイメージの形成にも寄与している。

政治家の反応

このスキャンダルに対し、政治家は自らの利害と対外イメージを考慮して各様な反応を示した。クアウテモク行政区長のモンレアル (Ricardo Monreal) は、MORENA という民衆運動に寛容な政党に属しているものの、本件の発覚以降、不法占拠に強硬なスタンスを取るようになった ((6))。問題家屋の搜索と撤去について質問を受けると、「安全のため」および「不法占拠を許さぬ決意を示すため」と答えている。彼は行政区内にある他の占拠地の調査を命じ、その結果、Asamblea de Barrios により占拠された不動産がほかに 18 ヲ所 (うちゴンサレス氏の組織が 8 ヲ所) あることが判明したという ((26), (34))。今後は、腐敗した政治家とは違い占拠に厳しく臨み、脅しにも屈しないとして ((14))、実際、本件以後、複数の占拠地で住民が政府により強制排除されたとの記事が左派のメディアにより掲載されている ((38))。モンレアルがこうした脱インフォーマル・ポリティクスとでも呼ぶべき姿勢をとった理由として、それまでの区長との差別化を図ろうとしたことや自らの知名度を高めようとしたことなどが考えられる。

PRI と PAN というメキシコ市では野党的な地位にある政党の関係者は、MORENA にも MORENA の起源をなす PRD にも責任の一端があると説く。たとえば、住宅問題に明るい PRI 議員のルドロ (Dunia Ludlow) は、メキシコ市における不法占拠の深刻さを指摘し、MORENA を今日率いるオブラドールは PRD 所属の市長のときに占拠をむしろ促進するような政策を

実施したと語る ((15))。また、メキシコ市の PRD 代表のフローレス (Raúl Flores) も、MORENA の方が PRD よりも Asamblea de Barrios のような組織と直接的で深い関係を持っていると答えている ((17))。

最後に、本件の首謀者ゴンサレス氏との関係を疑われた地方政治家がいる。彼らは、関係自体を否定するか、もしくは関係があったことは認めても犯罪への関与を否定する ((5), (19), (29))。

首謀者の反論

悪玉のゴンサレス氏側も、逆境に手をこまねいていたわけでない。メディアには根拠薄弱で偏った報道をしたこと、さらに行政区長には搜索と撤去が正規の手続きを踏んでいないとして、支持者とともに告発した ((8), (13), (21), (24), (31), (36))。事件のきっかけとなるコラムを書いたマウレオン記者と *El Universal* 紙に対しては損害賠償を請求しようとしたが、裁判所により却下されている ((44))。

ゴンサレス氏は「度を過ぎた」が故に囚人となった。だが彼は、ときに暴力をちらつかせつつ、露天商や不安定な住環境下にある人びとと政府関係者の間を取り持ってきた自らの生きざまを反省するわけではない。やっていることの非合法性を問われると、自分たちに瑕疵はなく、もともとトラブルを抱えている貧しい人びとが住宅を得ることができるよう支援してただけだと訴える ((31), (39))。政府も共犯関係にあったと開き直り ((32), (36))、有力政治家の名前を挙げて彼らとのコネを誇示する ((36), (39))。さらに政治家として立候補するのが夢だとも語る ((36))。支持政党をよく変える節操のなさを指摘されれば、自分が政治家を支持する基準は、住宅のための低利融資等あくまで実利を与えてくれるか否かだとし、現実的な政治観を披露する ((39))。

都市民衆運動の側の反応

劣勢に立たされた都市民衆運動の側はどのように対応したのだろうか。プロレスラーの出で立ちで人気を博した Asamblea de Barrios のリーダーの 1 人、‘Superbarrio’ (Marco Rascón Córdova) の意見からみてみたい。彼によれば、今回の事件は自分たちとは関係のない Asamblea de Barrios を名乗る犯罪集団の仕業であり、ここ数年みられるようになった事象という。貧困層が住宅を獲得することに自分たちは貢献してきたが、民主化後に PRD を支援する過程で、PRD 内の派閥争いに巻き込まれたり、組織の腐敗や分裂が進むことになったことも認める。自分たちに限らないが、都市民衆運動は自省する必要があるという ((9), (12), (16), (20))。

Asamblea de Barrios 以外の民衆組織も、メディアと地方政府による攻勢の中、自らを正当化する必要に迫られた。政党の中で運動組織との関係が最も深い MORENA 内には、違法な実践を非難しつつ、Asamblea de Barrios を擁護する者もいる ((20), (35))。他の運動組

織の中には、(違法性の高い) 不法占拠を批判する動きもみられた ((37))。

最後に

1 つの事例から一般的な結論を導くことはできず、用いた資料もメディアによる報道という限界はあるものの、事件の含意を述べて本稿を終えたい。それは、レヴィのような優れた制度設計者でも制御できないインフォーマル・ポリティクスを生命力を示している。他方で、首謀者の経歴と発言からは成長と民主主義へと至る道筋を想像することはできない。現代メキシコにおいて犯罪組織が跋扈するようになったゆえ、インフォーマリティは犯罪の温床ともなり得る。世間に知られて以降の経過から明らかになるのは、こうした政治は主要メディアやエリート層にとって嫌われていることであり、それを右派の政治家はもちろん左派の政治家も無視できないことである。インフォーマルな政治主体が、自らを正すことができるのか、さらには政治的影響力を保てるのかが注目される。

¹ 途上国のスラムについて大規模なサンプルを用いた近年の分析は、スラムが経済発展と貧困削減に負の効果を及ぼし得ることを指摘している(Marx, Stoker and Suri 2013)。

² 『経済センサス』に基づいて 1999 年から 2009 年の期間の (1) 雇用に占める比重と (2) 労働生産性の年平均変化率 (%) をみると、大企業 (従業員 $\geq$ 501) では (1) は 20%で変わらず (2) は 5.8%なのに対し、中企業 ($11 \leq$ 従業員 $\leq$ 500) では (1) は 41 から 38%へと減少し (2) は 1.0%どまりであり、小 (伝統) 企業 (従業員 $\leq$ 10) に至っては (1) は 39 から 42%へと上昇した一方 (2) は -6.5%と減少しているという(Bolio and others 2014: 7)。

³ 2 種類の労働者以外にレヴィは、フォーマルな企業で働きつつも社会保険に加入していないインフォーマルな労働者が 810 万人ほどいるとしている。彼らフォーマルな企業のインフォーマルな労働者の効用 U_{if} は、賃金 w_{if} に、非拠出型の公的扶助の受け取り T_i とそれへの評価 β_i の積を加えたものとなる ((4) 式)。

$$U_{if} = w_{if} + \beta_i \cdot T_i \quad (4)$$

労働者側の均衡条件は $U_f = U_i = U_{if}$ だが、脱法フォーマル企業は、合法的な企業とは異なり、賃金 w_{if} のほかに、政府にみつかる確率 λ (L_{if})、その際の罰金 F も考慮しながら、労働量 L_{if} を決定する (Levy 2008, Chapter7)。

⁴ ハンソンの挙げる他の 3 つの要因は、(1) 金融市場の不十分な発達、(2) 通信や電力、公立の学校教育など独占的部門の非効率性、(3) 中国との輸出品の競合である。特筆すべきは、他の 3 要因の場合と異なり、社会保険と公的扶助の不整合は、レヴィ (とその弟子たち) という 1 人の人

物によって唱えられていることである。

- ⁵ 人類学者や都市社会学者による先行研究の中には、インフォーマルな活動に従事する人びとの築いたネットワークの役割など社会的側面に焦点を当てた研究も多いが、インフォーマリティの政治に関する研究の展開はそれらに比べても遅れたといえる。
- ⁶ 露天商のインフォーマル・ポリティクスについては、Cross(1998)と Mathews, Lins Ribeiro and Alba Vega eds.(2012)等を参照のこと。
- ⁷ 政治学者のエリソンドは、東アジア諸国などと比べてメキシコ経済の成長率が低いことを政治経済学の枠組で説明しようとする(Elizondo 2009, 2011)。彼によれば、(特に公的部門における)労組や(通信部門等で著しい)独占的大企業は、競争や技術革新の代わりにレントを追及し、政治力と既得権を維持しようとしてきた。停滞から脱却するためには、これらの特権的集団をあぶり出し、改革推進に向けて公衆の支援を受けねばならないという。
- ⁸ レヴィも、改革を阻むないし骨抜きにする既得権者の政治力に言及しており、ハーシュマンを援用して、改革を促すには国民がインフォーマリティに退出(exit)するだけでなく、異議申し立てをすること(voice)も必要であり、そのためにも政治の透明性や説明責任が求められるという(Levy 2009, 236-239)。だが、彼の政治論は提起する改革のスケールに見合うものではない。
- ⁹ 都市民衆運動の介在するインフォーマル・ポリティクスについては、Cadena-Roa y López Leyva eds.(2013)、受田(2014b)、Bautista González(2015)等を参照してほしい。
- ¹⁰ 政治面で、都市民衆運動組織はPRIの一党支配に抵抗したという意味では民主化に貢献した一方で、政治的環境が変わって以降はクライエンテリズムの温床になっているといわれてきた。それを反省して今日、運動組織が参加型民主主義への関与等を通じて民主主義の深化に役立つようになったといえるのかは議論の余地がある。たとえば、Asamblea de Barriosを含む運動組織がメキシコ市の住民自治委員(los comités ciudadanos)に多数の立候補者を出したとの報道がなされたが、不法占拠のリーダーは地区住民の利益を代弁するという点では適任といえない(Karla Mora, “Asamblea de Barrios busca representación de los ciudadanos,” 24 horas, julio 28, 2016, <http://www.24-horas.mx/asamblea-de-barrios-busca-representacion-de-los-ciudadanos/>)。
- ¹¹ MORENAの反新自由主義、および直接的な政治参加と社会運動への高い評価は、2014年7月に表明された原則(Declaración de Principios de MORENA)の中にうかがうことができる(MORENA 2016, 97-99)：
-El modelo neoliberal impuesto en los últimos 30 años, sólo ha beneficiado a una minoría a costa de la pobreza de la mayoría de los mexicanos. La economía está en manos de los monopolios; la planta productiva está destruida; hay millones de jóvenes sin oportunidades de estudio o de trabajo; el campo se encuentra abandonado y miles de migrantes cruzan la la frontera norte cada día, a pesar de los riesgos y de la persecución.
- (第3条)Promoveremos una auténtica democracia participativa con figuras como la consulta ciudadana, la iniciativa popular, el referéndum, el plebiscito y la revocación de mandato. Sólo la organización de los ciudadanos puede construir una sociedad democrática, determinar lo público y hacer contrapeso a los abusos del poder...
- (第7条) Los miembros del Partido se nutren de las luchas y movimientos sociales de México; de las causas en torno a las cuales se organizan los ciudadanos y promueven sus derechos para ejercerlos...
- ¹² メディアとは別に、2014年3月に作成されたメキシコ市のINVIの資料の中には、大小さまざまな社会組織により運営されている地所(predios gestionados por las organizaciones sociales)のリストが含まれていた。筆者の数えたところ、1,383ある地所のうち、Asamblea de Barriosの関与したと考えられる地所は183(13.2%)あった(Instituto de Vivienda del Distrito Federal, Oficio No. CPIE/OIP/000442/2014 (Folio: 0314000136813), 7 de marzo de 2014 (<http://www.invi.df.gob.mx/portal/transparencia/Estrados/0314000136813.pdf>))。

参考文献

- 受田宏之 2009. 「自由を設計することの矛盾—貧困研究と制度論—」 下村恭民・小林誉明
編『貧困問題とは何であるか：開発学への新しい道』勁草書房.
- _____ 2014(a) 「階級とインフォーマリティ：経済学が見落としがちなもの」 ラテン・ア
メリカ政経学会編『ラテン・アメリカ社会科学ハンドブック』新評論、190-199.
- _____ 2014(b) 「現代メキシコ左翼のジレンマ—メキシコ市における左翼政党、社会運動
組織、低所得層の間のインフォーマル・ポリティクス—」『アジア経済』55(1) 67-96.
- Bautista González, Raúl 2015. *Movimiento urbano popular: Bitácora de lucha 1968-2011*. México
D.F.: Casa y Ciudad.
- Bolio, Eduardo et al. 2014. *A Tale of Two Mexicos: Growth and Prosperity in a Two-speed Economy*.
McKinsey Global Institute.
- Busso, Matías, María Victoria Fazio, and Santiago Levy 2012. “(In)Formal and (Un)Productive:
The Productivity Costs of Excessive Informality in Mexico.” IDB Working Paper Series
No. IDB-WP-341. Washington, D.C.: IDB.
- Cadena-Roa, Jorge y Miguel Armando López Leyva eds. 2013. *El PRD: Orígenes, itinerario, retos*.
México D.F.: UNAM.
- Centeno, Miguel Angel and Alejandro Portes 2006. “The Informal Economy in the Shadow of the
State.” In *Out of the Shadows: Political Action and the Informal Economy in Latin
America*, edited by Patricia Fernández-Kelly and John Shelfner. Pennsylvania:
Pennsylvania State University Press, .
- Cross, John C. 1998. *Informal Politics: Street Vendors and the State in Mexico City*. Stanford:
Stanford University Press.
- de Soto, Hernando 1986. *El otro sendero: La revolución informal*. Bogotá: Instituto Libertad y
Democracia.
- _____ 2000. *The Mystery of Capital: Why Capitalism Triumphs in the West and Fails
Everywhere Else*. New York: Basic Books.
- _____ 2002. “Law and Property outside the West: A Few New Ideas about Fighting
Poverty.” *NUPI*, December: 349-361.
- Elizondo, Carlos 2009. “Perverse Equilibria: Unsustainable but Durable Institutions.” In *No Growth
without Equity? Inequality, Interests, and Competition in Mexico*, edited by Santiago Levy
and Michael Walton. Washington D.C.: World Bank, 157-199.
- _____ 2011. *Por eso estamos como estamos: La economía política de un crecimiento
mediocre*. México D.F.: DEBATE.
- Hanson, Gordon H. 2010. “Why Isn’t Mexico Rich?” *Journal of Economic Literature* 48(4):
987-1004.

- INEGI (Instituto Nacional de Estadística y Geografía) 2013. *Censo de población y vivienda 2010: Tabulados del Cuestionario Ampliado*. México.D.F.: INEGI.
- _____. 2015. “Actualización de la medición de la economía informal, preliminar. Año base 2008.” *Boletín de prensa* Núm 565/15, 18 de diciembre de 2015, México D.F.: INEGI
- La Porta, Rafael and Andrei Shleifer 2008. “The Unofficial Economy and Economic Development.” *Brookings Papers on Economic Activity* 39(2): 275-363.
- _____. 2014. “Informality and Development.” *Journal of Economic Perspectives* 28(3): 109-126.
- Levy, Santiago 2008. *Good Intentions, Bad Outcomes: Social Policy, Informality and Economic Growth in Mexico*. Washington D.C.: Brookings.
- _____. 2009. “Social Security Reform in Mexico: For Whom?” In *No Growth Without Equity? Inequality, Interests, and Competition in Mexico*, edited by Santiago Levy and Michael Walton. Washington D.C.: World Bank, 203-244.
- Levy, Santiago and Norbert Schady 2013. “Latin America’s Social Policy Challenge: Education, Social Insurance, Redistribution.” *Journal of Economic Perspectives* 27(2): 193–218.
- Maloney, William 1999. “Does Informality Imply Segmentation in Urban Labor Markets? Evidence from Sectorial Transitions in Mexico.” *World Bank Economic Review* 13(2): 275-302.
- _____. 2004. “Informality Revisited,” *World Development* 32(7): 1159–1178.
- _____. 2009. “Mexican Labor Markets: Protection, Productivity, and Power,” In *No Growth without Equity? Inequality, Interests, and Competition in Mexico*, edited by Santiago Levy and Michael Walton. Washington D.C.: World Bank, 245-281.
- Marx, Benjamin, Thomas Stoker, and Tavneet Suri 2013. “The Economics of Slums in the Developing World.” *Journal of Economic Perspectives* 27(4): 187-210.
- Mathews, Gordon, Gustavo Lins Ribeiro, and Carlos Alba Vega eds. 2012. *Globalization from Below: The World's Other Economy*. London and New York: Routledge.
- MORENA (Movimiento Regeneración Nacional) 2016. *Documentos básicos*, Ciudad de México: Tribunal Electoral del Poder Judicial de la Federación.
- Murphy, Kevin M., Andrei Shleifer and Robert W. Vishny 1989. “Industrialization and the Big Push.” *Journal of Political Economy* 97(5): 1003-1026.
- OCDE 2015. *Estudios económicos de la OCDE: México 2015*.
- Tokman, Victor E. 2011. “Employment: The Dominance of the Informal Economy.” In *The Oxford Handbook of Latin American Economics*, edited by José Antonio Ocampo and Jaime Ros. Oxford: Oxford University Press

Asamblea de Barrios Poniente の事件に関する情報の出所

- (1) Contreras, Cintya y Gerardo Jiménez, “Vivienda en el DF: Invi ayuda sólo a grupos de presión: En sólo 5 años, antorchistas o Panchos Villa pueden obtener un departamento,” *Excelsior*, 20 de mayo, 2015, <http://www.excelsior.com.mx/comunidad/2015/05/20/1025084>.
- (2) Pérez, Francisco, “Muere uno en la Condesa tras persecución y tiroteo,” *El Gráfico*, 16 de diciembre, 2015, <http://www.elgrafico.mx/viral/16-12-2015/muere-uno-en-la-condesa-tras-persecucion-y-tiroteo>.
- (3) Servín Vega, Mirna, “Inmueble tomado por la Asamblea de Barrios es usado para distribuir drogas, denuncian vecinos,” *La Jornada*, 28 de diciembre, 2015, <http://www.jornada.unam.mx/2015/12/28/capital/030n2cap>
- (4) de Mauleón, Héctor, “Partidos incubaron a narcomenudistas en Condesa y Escadón,” *El Universal*, 6 de junio de 2016, <http://www.eluniversal.com.mx/entrada-de-opinion/columna/hector-de-mauleon/nacion/2016/06/6/partidos-incubaron-narcomenudistas-en>.
- (5) “Contesta de GABRIELA CUEVAS BARRÓN,” *El Universal*, 6 de junio de 2016, http://interactivo.eluniversal.com.mx/online/PDF_16/CARTA_ACLARACION_.pdf.
- (6) de Mauleón, Héctor, “¿Quién protege a Los Claudios?,” *El Universal*, 7 de junio, 2016, <http://www.eluniversal.com.mx/entrada-de-opinion/columna/hector-de-mauleon/nacion/2016/06/7/quien-protege-los-claudios>
- (7) Ramírez, Fernando, “Amenazan a Héctor de Mauleón tras operativo en La Condesa,” *El Universal*, 22 de junio, 2016, <http://www.eluniversal.com.mx/articulo/metropoli/cdmx/2016/06/22/amenazan-hector-de-mauleon-tras-operativo-en-la-condesa>
- (8) Ramírez, Fernanda López y Jesús Badillo, “Edificio en la Condesa era hogar de 10 familiashumildes: Asamblea de Barrios,” *Milenio*, 23 de junio, 2016, http://www.milenio.com/df/Asamblea_de_Barrios_en_la_Condesa-despojo_en_Benjamin_Hill_0_761324156.html
- (9) “Usan delincuentes Asamblea de Barrios,” *Reforma*, 23 junio, 2016, <http://www.reforma.com/aplicacioneslibre/articulo/default.aspx?id=876834&md5=11dd5c92155309af456c0c0904dfc842&ta=0dfdbac11765226904c16cb9ad1b2efe>
- (10) Fernández, Leticia, “Hallan túnel y 3 bóvedas en edificio de la Condesa,” *Milenio*, 23 de junio, 2016, http://www.milenio.com/policia/tunel_y_bovedas_Condesa-edificio_Asamblea_de_Barrios_Condesa-Asamblea_de_Barrios_0_761323889.html.
- (11) Fuentes, David, “Van tras 10 sujetos por túnel en Condesa,” *El Gráfico*, 24 de junio, 2016, <http://www.elgrafico.mx/al-dia/24-06-2016/van-tras-10-sujetos-por-tunel-en-condesa>
- (12) Villareal, Héctor, “¿Qué queda de la Asamblea de Barrios? Entrevista con Marco Rascón,” *Letras Libres*, 27 de junio, 2016, <http://www.letraslibres.com/mexico-espana/que-queda-la-asamblea-barrios-entrevista-marco-rascon>
- (13) Fuentes, David, “Asamblea de Barrios pelea por predio en la Condesa,” *El Universal*, 27 de junio, 2016, <http://www.eluniversal.com.mx/articulo/metropoli/cdmx/2016/06/27/asamblea-de-barrios-pelea-por-predio-en-la-condesa>
- (14) Rodea, Felipe, “Monreal denuncia amenazas de la Asamblea de Barrios,” *El Financiero*, 28 de junio, 2016, <http://www.elfinanciero.com.mx/nacional/monreal-denuncia-amenazas-de-la-asamblea-de-barrios.html>
- (15) Jiménez, Néstor, “Asamblea de Barrios invade en la Condesa, donde el m2 cuesta \$43 mil,” *La Razón*, 29 de junio, 2016, <http://www.razon.com.mx/spip.php?article313045>

- (16) “Asamblea de Barrios está en manos de quienes delinquen y despojan: fundador,” *Milenio*, 30 de junio, 2016,
http://www.milenio.com/region/Asamblea_de_Barrios_CdMx-Marco_Rascon_fundador_de_la_Asamblea_de_Barrios-Marco_Rascon_0_765523472.html
- (17) Murillo, Estéfana, “Ligan a Morena con Asamblea de Barrios,” *24 horas*, junio 30, 2016,
<http://www.24-horas.mx/ligan-a-morena-con-asamblea-de-barrios-infografia/>
- (18) Fuentes, David, “Burócratas dan pitazo a Asamblea de Barrios,” *El Gráfico*, 1 de julio, 2016,
<http://www.elgrafico.mx/al-dia/01-07-2016/burocratas-dan-pitazo-asamblea-de-barrios>
- (19) “Nueva evidencia vincula al PRI de Cuajimalpa con grupo criminal que operaba desde la Condesa,” *Sin Embargo*, julio 2, 2016, <http://www.sinembargo.mx/02-07-2016/3061765>
- (20) Delgado, Diana, “Asamblea de Barrios se deslinda de caso en Condesa,” *El Universal*, 2 de julio, 2016,
<http://www.eluniversal.com.mx/articulo/metropoli/cdmx/2016/07/2/asamblea-de-barrios-se-deslinda-de-caso-en-condesa>
- (21) Fuentes, David, “Asamblea de Barrios obtiene amparo en caso de predio Condesa,” *El Universal*, 3 de julio, 2016,
<http://www.eluniversal.com.mx/articulo/metropoli/cdmx/2016/07/3/asamblea-de-barrios-obtiene-amparo-en-caso-de-predio-condesa>
- (22) de Mauleón, Héctor, “El círculo de impunidad de la Asamblea de Barrios,” *El Universal*, 5 de julio, 2016,
<http://www.eluniversal.com.mx/entrada-de-opinion/columna/hector-de-mauleon/nacion/2016/07/5/el-circulo-de-impunidad-de-la-asamblea>
- (23) Hernández, Eduardo, “Monreal: Asamblea de Barrios y Panchos Villa, los invasores,” *El Universal*, 6 de julio, 2016,
<http://www.eluniversal.com.mx/articulo/metropoli/cdmx/2016/07/6/monreal-asamblea-de-barrios-y-panchos-villa-los-invasores>
- (24) “Líder de Asamblea de Barrios reclama demolición en La Condesa,” *Excélsior*, 8 de julio, 2016, <http://www.excelsior.com.mx/comunidad/2016/07/08/1103784>
- (25) de la Rosa, Yared, “Asamblea de Barrios la paga: tumban edificio que invadió,” *La Razón*, 9 de julio de 2016, <http://razon.com.mx/spip.php?article314212>
- (26) “Relacionan 10 predios en la Cuauhtémoc con Asamblea de Barrios,” *Excélsior*, 10 de julio, 2016,
<http://www.excelsior.com.mx/comunidad/2016/07/10/1104121>
- (27) “Excélsior halla en edificio de Los Claudios en la Condesa más evidencias que los vinculan a Cuajimalpa,” *Sin Embargo*, 10 de julio, 2016, <http://www.sinembargo.mx/10-07-2016/3064946>
- (28) “Asamblea de Barrios invade 10 inmuebles,” *La Razón*, 11 de julio, 2016,
<http://www.razon.com.mx/spip.php?article314353>
- (29) “En Cuajimalpa se deslindan de Asamblea de Barrios,” *El Universal*, 14 de julio, 2016,
<http://www.eluniversal.com.mx/entrada-de-opinion/columna/el-caballito-periodistas-metropoli/metropoli/2016/07/14/en-cuajimalpa-se>
- (30) Espinosa Rosete, Ana, “Operan ¡700! grupos de invasores en la CDMX,” *Crónica*, 18 de julio, 2016,
<http://www.cronica.com.mx/notas/2016/973021.html#>
- (31) “Asamblea de Barrios va por juicio político a Mancera y Monreal por predio en la CONDESA,” *Revista Poderes*, 20 de julio, 2016, <http://revistapoderes.com/?p=102174>
- (32) Cruz Monroy, Filiberto, “Claudios admiten retener 6 edificios en tres delegaciones,” *Excélsior*, 21 de julio, 2016, <http://www.excelsior.com.mx/comunidad/2016/07/21/1106238>
- (33) Hernández, Eduardo, “Detienen a líder de la Asamblea de Barrios,” *El Universal*, 27 de julio, 2016,
<http://www.eluniversal.com.mx/articulo/metropoli/cdmx/2016/07/27/detienen-lider-de-la-asamblea-de-barrios>
- (34) Valdéz, Ilich, “Asamblea de Barrios tiene 19 predios más: Patricia Mercado,” *Milenio*, 28 de julio, 2016,
http://www.milenio.com/df/Asamblea_de_Barrios_despojo-Patricia_Mercado_predios-Milenio_noticias_0_782322019.html
- (35) Barrios Fuentes, Ruth, “Diputada de Morena pide respetar invasiones de Asamblea de Barrios,” *La*

- Crónica*, 2 de agosto, 2016, <http://www.cronica.com.mx/notas/2016/975858.html>
- (36) Benítez, Diana, “Revela líder de Asamblea de Barrios sus nexos políticos,” *sedemex*, 5 de agosto, 2016, <http://sedemx.com/2016/08/05/revela-lider-de-asamblea-de-barrios-sus-nexos-politicos/>
- (37) “Indagar a líderes que invaden predios, pide MUP,” Raúl Llanos Samaniego, *La Jornada*, 15 de agosto, 2016, <http://www.jornada.unam.mx/2016/08/15/capital/039n2cap>
- (38) González Alvarado, Rocío, “Sufre el Centro Histórico de la CDMX ola de violentos desalojos,” *La Jornada*, 20 de agosto, 2016, <http://www.jornada.unam.mx/2016/08/20/capital/029n1cap>
- (39) Mendoza, Gardenia, “No soy el invasor Número1 de la Ciudad de México,” *El Diario NY*, 22 de agosto, 2016, <http://eldiariorny.com/2016/08/22/no-soy-el-invasor-numero1-de-la-ciudad-de-mexico/>
- (40) Fernández, Leticia, “Detienen a líder de la Asamblea de Barrios,” *Milenio*, 29 de agosto, 2016, http://www.milenio.com/policia/milenio_noticias_detienen_asamblea_de_barrios-lider_asamblea_barrios_0_801520142.html
- (41) Fuentes, David, “Asamblea de Barrios invade otro edificio,” *El Universal*, 21 de septiembre, 2016, <http://www.eluniversal.com.mx/articulo/metropoli/cdmx/2016/09/21/asamblea-de-barrios-invade-otro-edificio>
- (42) Valdovinos Gutiérrez, Javier, “Acusan a Asamblea de Barrios de invasión de predios en Álvaro Obregón bajo el cobijo de autoridades delegacionales,” *Impressions*, 6 de octubre, 2016, <http://impressions.com.mx/cdmx/articulo/acusan-a-asamblea-de-barrios-de-invasion-de-predios-en-alvaro-obregon-bajo-el-cobijo-de-autoridades-delegacionales.html>
- (43) Moguel, Jessica y Lourdes Hurtado, “Entre despojos y delincuencia: la Asamblea de Barrios en la CDMX,” *Uno TV*, 24 de octubre, 2016, <http://www.unotv.com/noticias/porta/investigaciones-especiales/detalle/entre-despojos-delincuencia-asamblea-barrios-cdmx-588589/>
- (44) Fuentes, David, “Juez falla en contra de líder de Asamblea de Barrios,” *El Universal*, 13 de enero, 2017, <http://www.eluniversal.com.mx/articulo/metropoli/cdmx/2017/01/13/juez-falla-en-contra-de-lider-de-asamblea-de-barrios>